

国威を輝かせた

2022年

国威を輝かせた
2022年

朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
チュチェ112(2023)

目　次

はじめに

2022年は、朝鮮民主主義人民共和国の70余年の歴史において厳しい試練と困難が幾重にも折り重なった年であった。

世界的な保健危機状況が好転しない中、2022年5月、朝鮮人民が2年3カ月にわたって強い忍耐力を発揮して築いた防疫障壁に穴が開いて国家と人民の安全をはなはだしく脅かした。

また日照りや豪雨など相次ぐ自然災害も朝鮮人民の前進を阻む障害となった。

その上、敵対勢力の反共和国策動は極に達し、一日一日が厳しい闘争の連続であった。

しかし、朝鮮人民はこれら全ての難関と挑戦を用意周到に乗り越え、厳しい状況下でも驚異的な成果を収めた。

朝鮮人民革命軍創建90周年慶祝閲兵式と共和国創建74周年記念行事をはじめとする盛大な政治・軍事祝典を催し、90余日にして防疫状況を改善して安定と平穏を取り戻し、1万世帯の松花（ソンファ）通りと800世帯の普通江（ポトンガン）川岸段々式住宅区をはじめとする新しい市街を朝鮮式文明のモデルとして立派に完成した。

また、咸鏡（ハムギョン）南道の連浦（リョンポ）地区に今一つの大規模温室農場を時代の創造物として立派に建設し、各地の農村に地域的・

地帯的特性を生かした農村住宅が建てられて、新時代の農村振興を力強く促した。

国の穀倉地帯である黄海（ファンヘ）南道には軍需工業部門の労働者階級が製作した5500台の農業機械が送られ、江原（カンウォン）道金化（キムファ）郡の地方産業工場が改築、近代化されて地方工業発展の新しい歴史が開かれた。

そして、敵対勢力の度重なる無謀な軍事的脅威に対処して自衛の戦争抑止力がいっそう備蓄・強化され、国家の安全と人民の安泰をしっかり守り抜いた。

持続的な困難の中でのこれらの貴重な成果は、国家と人民の運命をあくまで責任を持って守ろうとする朝鮮労働党の揺るぎない意志と卓越した指導によって成し遂げられたものであり、党と国家の政策に誠実に呼応して強靭に闘ってきた朝鮮人民の自力更生、刻苦奮闘の精神がもたらした誇らしい結実である。

1

国家の尊厳と威力を示威

一つの国家や民族がその尊厳を守り威力を発揮するのは決して容易なことではない。

特に今日、不正義の圧制が力の万能を唱え、世界を支配しようとする状況下で、それに追従せず、自己の尊厳を守るためには、厳しい悪条件に耐えなければならず、正義の力を持たなければならない。

全人民が指導者の周りに固く結集した一心団結の基盤の上に立っている国、誰かの顔色を窺ったり何ものかに束縛されることなく自主政治を実施している国がほかならぬ今日の朝鮮である。

今日、朝鮮は一心団結の力によって、歴史の厳しい風波を切り抜け、自主の道、社会主義の道に停滞と逡巡を知らず、まっすぐに前進している。

2022年に朝鮮人民は、朝鮮人民革命軍創建90周年、朝鮮民主主義人民共和国創建74周年をはじめとする複数の政治的契機に領袖、党、大衆が運命共同体を成した一心団結の威力を誇示した。

また、新時代の党建設綱領を指針として提示することによって、朝鮮労働党を永遠に必勝不敗の党として強化発展させる百年の大計の保証をもたらした。

国威を宣揚した政治祝典

2022年は複数の国家的記念日を契機に催された盛大な政治祝典を通じて、朝鮮特有の底力と気概が力強く轟かされた年であった。

特に朝鮮人民革命軍創建90周年慶祝閲兵式は、日増しに強まる朝鮮の国力を宣揚した重要な政治的・軍事的契機となった。

1932年4月25日は偉大な領袖金日成（キムイルソン）主席が反日人民遊撃隊を創建した日である。

朝鮮人民革命軍の創建は、民族解放、自力独立の旗を高く掲げて反帝決死抗戦を宣布した全民族的快挙であると同時に、強力な革命武力に依拠するチュチェ革命の新しい時代を切り開いた歴史的な出来事であった。

2022年4月に行われた朝鮮人民革命軍創建90周年慶祝閲兵式は、朝鮮の90年にわたる革命武力史の総括であると同時に、朝鮮の国力がどれくらいの高さにまで到達しているかを測り知る尺度ともなった。

閲兵式で行った敬愛する金正恩（キムジョンウン）総書記の演説と閲兵式の内容や形式がそれを実証している。

金正恩総書記は演説で、朝鮮における90年前の真の武力の誕生がわが国の革命史と民族史にとって、そしてわが国家と人民の将来の発展にとっていかに深遠で偉大な意義を

もつかを明らかにし、わが人民の優れた息子・娘が白頭（ペクトゥ）の密林で高く掲げた革命の武器は、噴出する朝鮮民族の独立精神であり、希望であり、偉大な団結の旗印であり、涙にまみれていた朝鮮人の手に自尊の気概と強力な力をもたせた原動力であったと強調した。

また、われわれは引き続き強くならなければならない、自らを守る力を養う上で満足や終わりなどはあり得ず、誰と立ち向かおうともわれわれの軍事的強勢はさらに確実なものにならなければならない、革命がこれを要求しており、子孫万代の将来がこれにかかっていると述べた。

総書記の演説は、朝鮮人民が生命と見なす自主精神がどこに根ざしており、自らの力をあれほど強く築かなければならなかった朝鮮の歴史的経験と、その途上でいかなる代価をも恐れない朝鮮人民の信念と意志を代弁したもので、朝鮮人民革命軍創建90周年慶祝閲兵式の意味を新しく浮き彫りにした。

閲兵式はその規模と内容、構成と芸術性、統一性において、以前の閲兵式とは根本的に異なる大政治・軍事祝典、文化祝典であった。

空挺兵たちの特色ある降下技巧、独特な国旗掲揚式、朝鮮人民軍総合軍楽隊と儀仗隊の総合技巧、徒歩縦隊の構成と夜間飛行のサーカス化・芸術化、そして朝鮮の第一国力である機甲化縦隊の荘厳さ、閲兵式の終わりを飾った歓迎

群衆、領袖と人民の熱烈な渾然一体を示す場面は、政治強国、思想強国、軍事強国としての朝鮮の実体を世界に知らしめた。

同時に閲兵式は、強力無比の軍事力を調和のとれた一つの美しい芸術的絵巻に披露することによって、軍事美学や軍事芸術の面で新たなページを切り開いた。

空中と地上で同時多発的に進められる立体感、閲兵隊伍と歓迎群衆、数多くの人員と機材、手段が一つに密着した絶妙な互換性、豊かな感情・情緒をそそる劇的な緊張感と芸術性、全ての工程と契機を特色あるものに組み合わせた完璧な統一性によって、閲兵式は一つの芸術作品とも言えた。

飛行縦隊の閲兵飛行を例にとって見ても、観衆にあたかも空中サーカスを見るような緊張感と快感を与える素晴らしいものであった。

閲兵隊員が着用した戦闘装具類と服装は、質的発展を成し遂げた朝鮮の国防発展様相とともに朝鮮人民軍の先進性と現代性を見せており、人民軍の戦闘力の象徴である主力戦車、高い機動力とせん滅的な打撃力を備えた最新型戦術ミサイル、強力な対空ミサイル、超大型新型ロケット砲、水中発射用弾道弾、自走化された発射台車、最高の現代性と打撃能力を備えた絶対兵器である「火星砲—17」型を載せた11軸発射台車などなどは観衆の賛嘆を絶頂に至らしめ、全国の人民に限りない自負心を抱かせた。

朝鮮人民革命軍創建90周年慶祝閲兵式は、世界の人々に朝鮮の武力装備の目ざましい更新周期を振り返らせる契機となった。

2016年6月、地対地中長距離戦略弾道ミサイル「火星—10」型を一回の試射で成功させた朝鮮は、それから1年足らずの2017年5月に戦術・技術的諸元と特性が一段と向上した新型の地対地中長距離戦略弾道ミサイル「火星—12」型の試射にも成功し、その後2カ月足らずの7月4日には大陸間弾道ミサイル「火星—14」型の試射にも成功した。

2017年11月には「火星—14」型に比べてはるかに優れ、超大型重量級核弾頭の装着が可能な新型の大陸間弾道ミサイル「火星砲—15」型の試射を完全に成功させた。

それから5年後の2022年4月の閲兵式は、朝鮮の武力装備の更新周期が一段と速くなったことを実証した。

金正恩総書記は閲兵式の演説で、われわれは今の時代に強兵の栄光を引き続き轟かせ、すぐる90年史とは比べようもない速いスピードでより強くならなければならない、共和国の核武力は、いつでもその責任ある使命と特有の抑止力を稼動できるように徹底的に準備していなければならないと言明した。

世界最強の兵器の堂々たる流れは自衛的国防力、戦争抑止力の持続的な発展をさらに加速し、より力強く推し進め

ていく朝鮮の信念と意志を示した。

この日の閲兵式は、歴史のページに勝利と栄光のみを記してきた最精鋭化された強兵の姿とともに、軍事技術的優勢はもはや帝国主義者の独占物ではなく、敵が原爆をもって朝鮮人民を威嚇していた時代は永遠に過ぎ去ったと厳かに宣言した11年前の4月の盛大な閲兵式とも、わずか数年の間に目ざましい発展の絶頂に上った国防力の発展様相を示した3年前の10月の素晴らしい閲兵式とも異なる姿を見せるものであった。

2022年7月27日、平壌(ピョンヤン)の普通江畔にある祖国解放戦争勝利記念塔の前では戦勝69周年記念行事が盛大に行われた。

史上初めて世界帝国主義の頭であるアメリカ帝国主義に恥ずべき破滅を宣告した朝鮮の戦勝節記念行事は朝鮮人民に誇りと自負を抱かせた意義深い祝典であった。

偉大な戦勝の年代を輝かせた祖国守護者にささげる一輪の花のように、高度1200メートルの上空から大きな共和国旗をなびかせながら降下する空挺兵の降下技巧、轟々たる爆音とともに急降下する超低空飛行と美しい火炎を噴きながら上昇する垂直ズーミング技巧、螺旋ズーミング飛行など様々の空中戦飛行動作を巧みに遂行し、戦勝節の夜空に慶祝の花火、敬意の祝砲を炸裂させた飛行隊の技巧飛行は、戦勝69周年行事の政治的・文化的意義を改めて強調した。

金正恩総書記が記念行事に出席して演説を行った。

祖国を誇り高く守り抜き、祖国防衛精神という思想的財産を築いた戦勝世代への愛と尊敬、気高い道義心が脈打つ総書記の演説は、人民の国を輝かせていく厳粛な宣言に貫かれていた。

総書記の演説後、戦勝69周年記念公演が行われた。

戦時歌謡『祖国防衛の歌』、歌謡『一つしかない祖国のために』など戦勝世代の気高い精神と魂を謳った歌謡と、語り詩『勇士の魂』のような演目が上った公演は、1950年代の祖国防衛者の精神が生きている限り、勝利の高貴な伝統はしっかり継承されるであろうとの信念を観衆に植えつけた。

偉大な祖国解放戦争勝利69周年を輝かしく飾った記念行事は、偉大な思想の力、団結の力によってひるむことなく前進する信念の道に全ての勝利と栄光があるという哲理を人民の心の中に刻み付け、永遠なる勝利の7・27のみをもたらす燃えるような誓いを固めさせた。

また、自力でわが祖国を繁栄する強国に建設しようとする人民の信念をいっそう強固にした契機となった。

2022年9月8日夜、万寿台(マンスデ)のふもとに位置している朝鮮民主主義人民共和国国家議事堂の前では共和国創建74周年慶祝大公演が盛況のうちに催された。

大公演が国家議事堂を背景に開催されるのはこれが初めてであった。

共和国創建74周年慶祝大公演は、規模と形式、形象化の

水準において新しく、特色のあるものとして朝鮮の新しい文明水準を誇示した。

『人民共和国宣布の歌』、不滅の頌歌『金日成元帥にささげる歌』で幕を上げた大公演は、社会主義祖国の偉大さはすなわち領袖の偉大さであるという哲学的深みのある主題思想的内容を、70余年の歴史に対する長編叙事詩的な構成とリアルな芸術的形象化を通じてはっきりと示した。

観衆を魅了させる照明効果と舞台装置、共和国の誇りに満ちた歴史を集約的に見せる舞台の背景、個性と特色を生かした斬新かつ異彩ある編曲と形象、緻密なアンサンブル、共和国旗を象徴する赤、青、白の合唱団の衣装に至るまで全ての面で主題思想が深遠で、形式が独特な印象深い公演であった。

このように、2022年に行われた各種の政治祝典は、朝鮮の地位を今一度誇示した重要な契機であった。

これらの政治祝典は人民に自国に対する誇りと自負心を深く刻み付け、将来への確信を抱かせるとともに、朝鮮式文明のモデルになる実体と、各分野において図式と硬直を打破し、絶えず新しいものを志向し創造していく朝鮮の現実をあまねく示した。

全党強化の新たな転機をもたらす

党建設の偉業はすなわち革命偉業であり、党建設の水準はすなわち革命発展の水準である。それゆえ、党を強化する活動は、常に時代を先んじるべきであり、時代の変遷とともに引き続き深化されなければならない。

もし、社会主義政権党が階級闘争の武器、革命と建設の武器ということにのみ執着しつつ、権威主義に走るならば、その指導的機能を失い、革命偉業も台無しにしてしまう。

時代の変遷に応じて朝鮮労働党は、朝鮮革命の参謀部としての役割をいっそう立派に遂行するために、歴史的にチュチェの党建設思想と理論を創始し、それを絶えず深化・発展させてきた。

朝鮮労働党のほぼ80年に及ぶ政権党史において2022年は、全党強化の新たな転機が開かれ、万年の計の不滅の大綱領がもたらされた年であった。

2022年にまず、全党強化の新たな転機がもたらされた。

金正恩総書記は、朝鮮労働党第2回初級党書記大会、朝鮮労働党第1回宣伝部門活動家講習会、朝鮮労働党各級党委員会の組織部党生活指導部門活動家のための特別講習会といった指導境界別、工作部門別の大会合を次々と開催し、党組織の戦闘的機能と役割をかつてなく高めるようにした。

朝鮮労働党の強化・発展史に輝かしく記されるこの歴史的な会合を契機に、党の基層組織がいっそう強化され、各級指導単位と工作部署が自己の任務と活動原則、闘争方向をしっかりと認識した上で党活動を革新していくようになった。

金正恩総書記が提示した初級党役割論、初級党重視論と、党生活の組織と指導で堅持すべき主要4大原則と6大課題、党宣伝活動家が党中央に忠実な高出力の拡声器、雑音なき増幅器になるという思想は、全党と全社会を朝鮮労働党の思想で一色化し、党組織の戦闘的機能と役割を強める上で転機を切り開いた綱領的指針である。

チュチェの思想論を揺るぎなく堅持している朝鮮労働党にとって、思想活動は党活動の中核の中の中核である。

思想第一主義、ほかならぬこれが難局を切り開き、新しい勝利を成し遂げられるようにする根本的秘訣であり、朝鮮労働党固有の革命方式である。

思想の威力をもって革命を勝利のうちに前進させ、確固と保証するために、朝鮮労働党はいつも思想部門に第一の意義を付与している。

朝鮮労働党は、全人民を社会主義祖国の貴重さを骨身にしみて感じ、陰ひなたなく、他人の評価を気にせず、祖国の富強・繁栄のために純潔な良心を持って献身的に闘う真の愛国者に育て上げる愛国主義教育を、繁栄する強国の建設を促進する上で提起される極めて重要な問題と見なしている。

2022年に思想活動部門では、愛国主義教育を着実に根気よく行うことによって、わが国家第一主義が全人民的な愛国精神としていっそう発展するようにした。

人民のための滅私奉仕は朝鮮労働党固有の革命的党風である。

金正恩総書記の賢明な指導の下、党組織と幹部の間では人民性が著しく向上し、人民のために滅私奉仕する気風がいつにもまして強く発揮された。

総書記は朝鮮労働党第2回初級党書記大会で、この世にまたとない人民の党、しもべの党である朝鮮労働党の尊厳と権威を賭けて、これから人民のための火のごとき強行軍、献身奮闘の強行軍をすべきである、今こそわが党の活動家が人民により身近く、より親しく近寄るときであると述べた。それは全党の活動家が新しい覚悟を持って滅私奉仕の道を歩むようにした偉大なアピールであった。

金正恩総書記は、人民のためならいかなる苦労や犠牲もいとわず、死線にもためらわずに出る為民献身の気高い模範をもって、全国の党組織と活動家を滅私奉仕の道に導いた。

常に人民と運命をともにする総書記の気高い姿を通じて、幹部たちはいかに人民を奉じ、仕え、いかに人民の生命・安全を守るべきかを痛感した。

総書記の為民献身の崇高な模範に見習い、各級党組織と

幹部は生活に困っている人民の中により深く入った。

人民のために滅私奉仕する党風を確立するための活動が本格的に繰り広げられる中、党組織と幹部の間で人民観が確立していない傾向が是正され、人民性が向上した。

総書記の崇高な志と精力的な指導は、党組織と幹部の間で滅私奉仕の気風を確立し、人民性を著しく向上させた根本要因となった。

このような実践闘争を通じて、朝鮮労働党はいくら歳月が流れても変質しない老練な党として強化され、そうした実際の経験に基づいて新時代の党建設方向という万年の計の理論的指針がもたらされた。

2022年10月17日、朝鮮労働党中央幹部学校を訪れた金正恩総書記は、教職員や学生の前で『新しい時代のわが党の建設方向と朝鮮労働党中央幹部学校の任務について』と題する記念講義を行った。

朝鮮労働党中央幹部学校は朝鮮労働党の中核を育てる原種場である。

朝鮮の解放（1945・8・15）後、建国、建軍偉業を導く朝鮮労働党にとって、党勢を急速に拡大、強化するとともに、将来、社会主義政権党に発展していく上で必須不可欠の組織的基礎と思想的・理論的基礎を築くべき重大な任務が提起されていた。

1945年10月10日、金日成主席は朝鮮革命の指導的政治組織である朝鮮労働党を創建し、1946年6月1日には、常設的

な党幹部養成機関である中央党学校（当時）を創立した。

1948年8月、同学校を訪れた主席は、中央党学校1年制卒業班の卒業生に、祖国の自主・独立と人民の自由・幸福のために人民の先頭に立ち、また人民の中に入って常に人民とともに仕事をする党と国家の有能な幹部になれという意義深い親筆を残した。この親筆は、朝鮮労働党の建設と活動の全過程に貫かれた不変の指針と原則を集中的に盛り込んだ大命題となった。

朝鮮労働党中央幹部学校は、党の思想と路線、政策を理論化、総合・体系化し、党の組織的・思想的強化と指導活動を教育実践を通じて学術的に擁護してきた。

学校を卒業した数多くの党活動家と人材は、党と国家の建設、社会主義建設の各方面で有能かつ堅実に活躍することによって大衆を先導する模範を示し、党と国家の発展に大きく寄与した。

金正恩総書記は記念講義で、徹底的な継承性と斬新な革新性を結合させ、当面の革命任務を遂行するための党活動の強化と、革命の将来の発展を保障する展望的な党建設を組み合わせて著しい発展を遂げてきたこの10年間の道程を誇り高く総括し、朝鮮労働党と朝鮮革命の発展において重大な里程標となる新時代の党建設方向を打ち出した。

金正恩総書記は記念講義で、今日わが党は80年に近いその政権党史を100年、いやそれ以上末長く続けなければ

ならない責任ある時期に直面しているとし、わが党の革命思想と業績が偉大なものであっても、党の後進をしっかり育成できる教育システムが完備されていなければ、そのため党の偉業を担って立つ後進が立派に準備されていなければ、党の思想と業績を継承するどころか、将来について考えることさえできないのは自明のことであると述べた。

まさにそのため、金正恩総書記は他でもない朝鮮労働党中央幹部学校で、社会主義政権党の新しい百年の大計を保証する不滅の大綱領を提示したのである。

総書記が朝鮮労働党の歴史的根源となる「打倒帝国主義同盟（トゥ・ドゥ）」が結成された記念日である10月17日に記念講義を行ったことにも実に深い意味がある。

金正恩総書記は、全党的に常に党の創立初期の崇高な理念と覚悟を堅持し、発揚するための教育と闘争を深化させると同時に、わが党本来の革命的党風を体質化した党活動家を育成する活動を責任を持って強く推し進めなければならないと指摘した。

また、中央幹部学校はわが党の党建設重視思想と後進育成政策にのっとり、朝鮮労働党が今後50年、100年、数百年後の事も安心して委ねられる有能な党活動家、巧みな政治活動家を育てるものとの期待と確信を表明した。

金正恩総書記は、社会主義政権党が将来への道を切り開

く上で重要なのは、いかなる環境や条件の下でもその発展中心を失わず、本然の任務と活動原則を揺るぎなく堅持することであり、党中央の周りに全党を一致団結させる闘いを引き続き深化させることであり、常に勤労者大衆の中にしっかりと根を下ろして全人民の一致した信頼を獲得することであると言明した。

そのために、政治建設、組織建設、思想建設、規律建設、作風建設を新時代の朝鮮労働党の建設方向として定めた。

総書記が示した党建設方向は、朝鮮労働党を政治的に円熟で、組織的に強固で、思想的に純潔で、規律において厳格で、作風において健全な党に強化・発展させることである。

一言で言って、党の政治建設、組織建設、思想建設、規律建設、作風建設を着実に推し進めることである。

柱が丈夫な家は崩れないように、政治建設と組織建設、思想建設、規律建設、作風建設を立派に行えば、朝鮮労働党は絶対に微動だにせず、革命的党としてのその使命と本分を全うすることができる。

金正恩総書記は記念講義で、党の政治建設を力強く推し進めることについて明らかにした。

党の政治建設は党の指導力を絶えず向上させ、正しい政治風格を維持し、強固にする上で中核的な課題である。

総書記は、党の政治建設は常に重視し強化すべきであり、組織建設、思想建設その他の党建設分野を先導し規

制すべきであると述べた。

党の政治建設を力強く推し進めてこそ、党を高い尊厳と強い戦闘力を持つ不敗の前衛隊伍に永遠に強化し発展させることができる。

総書記は、全党が党中央と一心同体となるべきであり、各級党委員会は当該単位の最高指導機関、政治的参謀部としての機能と役割を正確に果たし、党をなす各党員は自発的な前衛的闘士、政治活動家らしく高い水準で思考し闘争しなければならず、革命と建設に対する指導方法を絶えず発展させなければならないと述べた。

金正恩総書記は、党の組織建設を引き続き強化することについて明らかにした。

党の組織建設をさらに深化・発展させてこそ、党をいかなる風波も克服し、社会主義・共産主義建設を目指して力強く進む組織的全一体、行動の統一体に引き続き強化することができる。

党の組織建設は党中央を中心とする全党の組織的結束を強固にし、党の健全な新陳代謝と戦闘力を保つための必須の要求である。

総書記は、党が大衆の信頼を獲得し、強固にするための活動に注力する問題、党組織と党活動家が常に民心に耳を傾け、鋭敏に対応し、民心の調整を巧みに行う問題、百年大計の党建設の重要な保証である青少年との活動に力を入れる問題について言及した。

金正恩総書記は党の思想建設をより力強く推し進めることについても明示した。

党の思想建設は朝鮮労働党の存在と強化・発展のための先決条件であり、革命と建設に対する政治的指導を実現できるようにする根本的な保証である。

党の思想建設を力強く推し進めてこそ、党の変色と変質を防ぎ、党の思想的陣地をさらに強化することができる。

総書記は、わが党の思想・理論と政策を深く解説・宣伝するための理論研究を真摯に行い、将来を見通して深めていくことで、理論研究部門でわが党と革命発展の合法則性と社会主義建設の前途についても原理的に深く解明し、体系的に展開して党の思想建設を先導すべきであると述べた。

金正恩総書記は、党の規律建設を強く推し進めることについて言及した。

党の規律建設は党活動全般であらゆる非組織的かつ無規律的で否定的な要素を徹底的に排除し、党の健全な発展を促し保証するための重要な要求である。

党の規律建設を強く推し進めてこそ、全党を党中央の唯一的結論に従って一糸乱れず行動する革命隊伍にし、党の指導的役割を強めて革命闘争と建設事業を成功裏に遂行していくことができる。

金正恩総書記は記念講義で、党の作風建設を着実に行うことについても触れた。

党の作風建設は党がその理念と綱領、時代の発展にふさわしい固有の党風を固守し、強固にする活動である。

新時代の党建設において作風建設の占める地位は極めて重要である。

作風問題は、個別の党活動家に限る問題ではなく、党の尊厳に関わる問題、党の権威とイメージに関わる問題である。

党の政治理念と闘争目的がいかに正しいといっても、幹部が大衆の真の奉仕者になれず、腐敗し変質するならば、党そのものが人民から背を向けられ、見捨てられるようになることは歴史の教訓である。

そのため、新時代の党建設方向はかつて指導芸術建設分野で取り扱われていた作風問題を独自の分野と見なしている。

作風建設の基本的要求は、全党的に幹部が金日成主席と金正日（キムジョンイル）国防委員長が創造し、金正恩総書記が発展させ豊富にした革命的活動気風と人民的活動作風を体得して実生活に具現し、革命的な活動姿勢を持って任せられた任務を責任を持って遂行する気風を確立することである。

そればかりでなく、党内に人民に対する正しい態度が常に支配されるようにし、各級党機関に勤める活動家の生活準則を作風建設の新しい要求に即してより細分化・現実化し、それを徹底的に順守する秩序を確立することである。

党の作風建設を着実に推し進めてこそ、党内に革命的かつ人民的な指導作風と潔白な政治風土を維持し、培養することができる。

金正恩総書記は、全党的に幹部の間で金日成主席と金正日国防委員長が創造し、わが党によって発展し豊かになった革命的活動気風と人民的活動作風を体得し、実生活に具現させるための活動をねばり強く、方法論を持って行って、朝鮮労働党特有の共産主義的作風が引き続きつながるようにすべきであると述べた。

人民を神聖視し人民に献身的に奉仕することで、人民の信頼を厚くし、その党風を浄化し、党と人民の一心団結の力によってより高い目標を達成していくことが朝鮮労働党の存在方式、革命方式である。

金正恩総書記が打ち出した新時代の党建設方向は、朝鮮革命の起源であり朝鮮労働党の根である「トゥ・ドゥ」の結成96周年になる意義深い日を起点に、全党強化の新しい全盛期を切り開くことで、朝鮮労働党の80年に近い政権党史を800年、8000年に続ける進路を明示した万年の計の党建設綱領である。

金正恩総書記が打ち出した新時代の党建設方向は、最長の政権党史を記録している尊厳ある朝鮮労働党を永遠に前途洋々たる党に強化・発展させ、党の指導的役割を非常に強めて社会主義・共産主義建設を確信を持って推し進めることのできる確固たる保証をもたらした威力ある思想的・

理論的武器、不滅の旗印として朝鮮革命の発展で大きな歴史的意義を持つ。

新時代の党建設方向は全党強化の新しい全盛期を切り開くことによって、朝鮮労働党を永遠に衰退を知らず、いっそう血気盛んな社会主義政権党に強化・発展させうる進路を示した永久不滅の党建設大綱領である。

朝鮮労働党は今まで、主に組織建設、思想建設、指導芸術建設の三つの方面で全党を強力な組織的全一体、思想的純潔体につくり、指導と大衆を結合させるためのたゆみない闘争を展開して厳しい難局に打ち勝ち、偉大な勝利を収めてきた。

しかし、朝鮮革命の主体的・客観的条件と党活動の現状は、成果におごることなく全党強化にいっそう拍車をかけるばかりでなく、より的確で効果的な方法論を持って闘うことを要求している。

もし、刻一刻と変化し発展する時代の要求、党活動の現状とはかかわりなく、既存の枠にとらわれて党建設を革新しないならば、党そのものを強めることも、革命偉業を前進させることもできない。

新時代の党建設方向は、党の指導力と戦闘力を絶えず強めて社会主義・共産主義建設を確信を持って推し進める進路を明示した不滅の旗印である。

金正恩総書記が打ち出した新しい党建設5大方向に関する思想は、新時代の要求に即して金日成主席と金正日

国防委員長のチュチェの党建設思想と理論を全面的に継承し深化・発展させて、朝鮮労働党の面貌と気風をより完璧に、より徹底的に確立することのできる道程を明らかにした科学的で独創的な思想である。

このように、朝鮮革命の参謀部であり、社会の指導的勢力である朝鮮労働党を新時代の要求に即してさらに強化することのできる理論的・実践的武器がもたらされることによって、朝鮮労働党はその指導力と戦闘力を強めて社会主義政権党としての役割を立派に果たせるようになった。

朝鮮労働党中央委員会第8期第6回総会では、金正恩総書記の独創的な党建設思想と理論に基づく5大方向を党の新時代の党建設理論に策定するという決定書が採択された。

2

困難の中で収めた貴重な成果

朝鮮人民は2022年に、建国以来の大動乱である保健危機という厳しい挑戦と試練を切り抜けなければならない状況の下でも、各分野で革新的変革を成し遂げて、社会主義建設を力強く推し進めた。

そのような闘いの中で首都平壌に労働党時代の繁栄と文明を象徴する新しい市街が立ち上がり、咸鏡南道連浦地区に大温室農場が建てられ、全国各地の農村に新世紀の農村文化住宅のモデルが建設されて国の様相が一新された。

また、新時代の農村振興の初の種とも言える5500台の農業機械が国の農業生産で重要な役割を担っている黄海南道の田野で一斉に稼動し、検徳（コムドク）地区が山岳峡谷都市としての姿を現し、平壌の和盛（ファソン）地区に今一つの新しい建築群が立ち上がった。

取り戻された安定と平穏

2022年、朝鮮では2年3カ月間も守ってきた防疫障壁に穴が開く国家最重大事件が起きた。

2022年4月末から原因不明の熱病が全国へと爆発的に伝播、拡大されて、短期間に35万人余の発熱者が生じた。

国家非常防疫司令部と当該機関は、5月8日、首都の一団体の発熱者たちから採集した検体に対する厳格な遺伝子配列分析結果を審議し、当時、世界的に急速に広がっているオミクロン変異ウイルス「BA.2」に一致するという結論を下した。

5月12日の一日だけでも全国的に1万8000人余の発熱者が新たに発生し、18万7800人余が隔離・治療を受けており、6人(そのうち「BA.2」確診者1人)が死亡した。

この重大事態に直面した人々は狼狽してなすすべを知らなかった。

そんな中で2022年5月12日、朝鮮労働党中央委員会第8期第8回政治局会議が開かれた。

朝鮮労働党中央委員会政治局は、当面の状況に対処して国家防疫システムを最大非常防疫システムに移行させる必要があることについて認めた。

金正恩総書記は、国の防疫危機状況を概括して分析し、

今回の最大非常防疫システムの基本目的はわが境内に入った新型コロナウイルスの伝播状況を安定的に抑制・管理し、感染者を早急に治癒させて、伝播根源を最短期間内に除去することであると述べた。

総書記は、今われわれにとって悪性ウイルスよりもっと危険な敵は非科学的な恐怖と信念不足、意志薄弱だとし、われわれには党と政府、人民が一致団結した強い組織力があり、長期化した非常防疫闘争の過程に培養され、強化された人々の強い政治的意識と高度の自覚があるため、直面した突発事態を必ず打開し、非常防疫活動で勝利を勝ち取るであろうと確言した。

総書記は全国の各市・郡で当該地域を徹底的に封鎖し、活動単位、生産単位、生活単位別に隔絶された状況下で活動と生産を行い、悪性ウイルスの伝播空間を完璧に遮断することについて強調した。

そして、党と政府が今のような非常時を予測して備蓄しておいた医療品予備を動員するための措置を稼動させることにしたと述べた。

これを受けて、全国の市・郡別封鎖と単位別隔離措置、科学的で集中的な検査と治療の手配、国家の非常医薬品の解除と供給、人民生活の安定など、短期間に防疫形勢を逆転させうる適時的かつ科学的な防疫・治療活動が展開された。

まず、即時的かつ厳格な封鎖措置が講じられた。

これは実際上、より強い忍耐力が求められる措置であった。

国家的な経済活動と社会生活での損害は言うまでもなく、個々の住民がなめるべき生活上の苦痛も並々ならぬものであった。

しかし朝鮮人民は、党と政府の措置に決死の覚悟をもって呼応し、そのような状況下でも自分の職場を守り、各自の仕事を責任を持って遂行していった。

国家的に薬品の保障と供給対策が強く立てられ、治療活動が本格的に行われた。

全ての保健医療・防疫部門の活動家が24時間緊張した治療・防疫活動を繰り広げ、医科大学の学生や退職していた医療従事者も防疫・治療活動に自発的に参加して患者の治療に当たった。

しかし、党中央委員会第8期第8回政治局会議の決定に従い、国家的に備蓄医薬品を緊急解除して供給するための措置が取られたにもかかわらず、需要に応じて円滑に供給できず、住民の治療に支障をきたしていた。

悪性伝染病が速いスピードで伝播されている状況下で、国家的に一番切実な問題の一つは、伝染病を患っている人々に薬品を迅速に供給することであった。

このような実態を把握した金正恩総書記は、5月15日に開かれた党中央委員会政治局協議会において、人民軍軍医部

門の強力な陣容を投入して平壌市内の医薬品供給を即時に安定させるという朝鮮労働党中央軍事委員会の特別命令を下達し、その後の重要な党会議で薬品供給を改善し、全ての薬局が24時間運営態勢に移るという対策を講じた。

こうして首都の数百の薬局に軍人たちが急派され、市内の薬局や街、家々からは「敬愛する金正恩元帥が送ったわが軍隊が来た！」「もう助かった」と叫ぶ人民の感激の声が響き渡った。

深夜や明け方を問わず開かれた党中央委員会政治局会議、政治局協議会、政治局常務委員会会議で、金正恩総書記は、狼狽している活動家たちに勝利の信念と勇気を与え、正しい闘争方略と方途、原則的問題を具体的に示した。

最大非常防疫戦の初期、全国的に悪性伝染病が同時多発的に広がり、一日の発熱者数が数十万人ずつ急増する状況下で、人々が自分たちの手で治療する科学的な治療法を確立し、それを普及することを早く先行させなくては、致命率を減らすことができなかった。

これと関連して、保健医療部門ではステルスオミクロン変異ウイルス感染症を完治できる最良化・最適化した薬物投与法を見つけて正しい治療戦術を立て、それを国家的に規格化し、治療ガイドラインとして配布した。

治療予防機関をはじめとする当該部門では、広範な大衆

に伝染病の防止と治療に必要な常識の宣伝を行い、大衆の理解を図ることのできる多様な記事や番組を作ってマス・メディアを通じて広く普及した。

そうして、首都だけでなく地方でも整然たる薬品供給システムが立てられ、朝鮮人の体質や特性、朝鮮の実情に合う治療方案を確立し、適用・普及する活動が急テンポで推進されることによって、悪性病魔の危険から人民の生命を救うことができた。

これとともに、防疫形勢を逆転させるための取り組みが力強く展開され、防疫大戦は名実共に全民抗戦となった。

このように、科学的な防疫政策と危機対処戦略を打ち出して党と国家の全ての力を悪性ウイルスとの闘いへ奮い立たせた金正恩総書記の正確な指導と、保健医療・防疫部門、人民軍軍医部門、全国人民の決死の闘いによって、朝鮮では、最大非常防疫システムを稼動したときから3カ月足らずの期間に、悪性伝染病による発熱者を全て全快させ、致命率も0.0016％という低い数値を記録するようになった。

人民軍軍医部門の戦闘員は、首都の数百の場所に進出して薬品供給活動を緻密に行うとともに、首都市民に国家の恩情がより速く、より正確に行き届くようにするために薬品サービスの効率を高め、人民の要求と便宜を最大限保障

するための実務的対策を迅速に立てた。

また、薬局を訪れる人々だけでなく、患者たちを訪ねて治療の道をたゆみなく歩き回り、人民を守る軍隊としての気高い使命を立派に果たした。

その道で自分の生命をささげた軍医もいたし、病気の担当医に代わって患者たちを治療し、自分の生命の安全はかえりみず、急性呼吸器不全で詰まった患者の気道を開けて生命を救った軍医、戦闘員もいた。

彼らは極めて困難な条件の下でも人民にいささかの負担もかけず、撤収するときには深夜、人知れずに首都を離れていった。

こうした朝鮮人民軍軍医たちの姿は立派な軍隊を育てた朝鮮労働党に対する人民の信頼をいっそう固いものにし、首都の各家庭には再び生気と活力が溢れるようになった。

朝鮮人民が勝ち取った防疫大勝は、あくまで人民の生命と健康を責任を持って守ろうとする朝鮮労働党の剛毅な意志と犠牲的な献身、熱い愛の賜物であった。

2022年5月14日に開かれた党中央委員会政治局協議会で金正恩総書記は、わが党中央が歴史の試練の前で今一度自己の指導的役割を検証されるときが来た、われわれは何に必要な人々なのか、われわれは誰のために生命までささげて闘うのかをより深く自覚するときである、わが党は自己

の重大な責務を果敢に果たすであろうし、限りない忠実性と献身をもって祖国の安全と人民の安寧に全面的に責任を持つであろうと述べた。

最大非常防疫システムが稼動したその日から、朝鮮労働党中央委員会が最大の緊張状態に入り、全国の防疫状況を指揮・統制する機能を果たしたとも言える。

金正恩総書記は自ら国家非常防疫司令部を訪れて、初めて直面した大国難を前にして何からどうすべきか知らずにいる幹部たちに防疫活動と関連した貴重な指針と明晰な方略を明示した。

それだけではなかった。

数日後総書記は、首都の医薬品供給実態を直接確かめるべく、一日にも多くの発熱者の家族が出入りし、病気を患ったばかりの販売員がいる危険極まりないところである平壌市大同江(テドンガン)区域のある薬局を訪れて、薬局の運営状態、薬品の供給と販売についてつぶさに確かめ、貴重な教えを与えた。

朝鮮人民が防疫大勝を収めることができたのは、決して条件や土台がよかったからではない。

金正恩総書記の人民に対する愛情が全人民を防疫大戦へ力強く奮い立たせた原動力となったのである。

総書記は、2022年5月14日に開かれた党中央委員会政治局協議会で、一日も早く全ての家庭に平穏と笑顔が訪れるこ

とを祈願する気持ちをこめて家庭で用意した常備薬を困っている世帯に贈ってほしいと提起し、その1カ月後の6月15日には、黄海南道海州(ヘジュ)市で急性腸内性伝染病が発生したことと関連して、家庭で用意した医薬品を朝鮮労働党黄海南道海州市委員会に送り届けた。

総書記の気高い模範を見習って人民の間で強く発揮された互いに助け導き合う美徳、社会と集団のために自分の全てをささげる美風も防疫大勝をもたらした重要な秘訣であった。

朝鮮労働党中央委員会の幹部たちは家庭で用意した数百種の医薬品を黄海南道に送り、全国の数多くの医療従事者が現場で寝食しながら治療にあらゆる真心を尽した。

幹部と勤労者の間で医薬品や防疫物資、食糧、資金などを防疫及び治療予防機関と参戦老兵、戦傷栄誉軍人の家庭、困っている世帯に送る真心のこもった善行が数多く発揮された。

2022年5月下旬のある日、平壌市東大院(トンデウォン)区域に住んでいる一女性は、家庭にあった医薬品を同じ洞の住民の治療・予防に使ってほしいとして寄贈し、平川(ピョンチョン)区域のある人民班では、転居してきたばかりで知り合いのいない一世帯の幼い娘が重態に落ちると、人民班長や隣人たちが自分の家庭にあった常備薬を渡し、担当医が駆けつけてきて治療して少女の病状を好転させた。

この他にも、悪性伝染病に苦しんでいる人民に薬品や食品を送るために徹夜で奮闘した工場の従業員や幹部もおり、家産を惜しみなく持ち出して用意した物資を寮や大学の寄宿舎、育児院、愛育院に提供した人々もおり、援助の必要な世帯、困っている隣人に私心を去って食糧や副食物、必需品を分け与えた住民の美挙は数え切れないほど多い。

朝鮮人民は建国以来初の厳しい防疫危機を乗り越える過程に、悪性ウイルスとの戦争においては現代科学技術の力だけではとうてい勝つことはできないということ、全ての公民が一致団結と互いの協力をもって片時も気を緩めることなく防疫障壁を打ち固めてこそ、所期の成果を収めることができるという教訓を今一度骨に刻むようになった。

それは、2年3カ月間という最長の防疫記録が示しており、そのような防疫障壁に一瞬の気の緩みで隙間が生じた2022年5月の教訓が残すことであった。

国の全ての部門や単位が完全封鎖という党と国家の決定・指示を絶対支持し、一糸乱れずに歩調を合わせて瞬時の気の緩みもなく防疫活動に参加し、互いに統制し遵守する強い集団主義精神と徳や情によって結ばれた朝鮮の社会制度特有の優越性は、世界的な保健危機の中で最長の防疫記録を創造して世人を驚かせた。

このような成果は、朝鮮労働党の指導力と戦闘力、国家防疫政策の正当性と科学性を如実に実証し、社会主義制度の政治的・思想的優勢、特有の組織力と団結力が余すところなく発揮された結果である。

2022年の非常防疫戦は、指導者と人民が渾然一体を成し、徳と情によって結ばれた朝鮮の一心団結の威力、朝鮮の社会制度特有の優越性を遺憾なく誇示した。

防疫戦の日々、高熱の身でありながらも愛する人民を考えて少しも休まず、昼夜を分かたず防疫戦を陣頭指揮した金正恩総書記と朝鮮人民の間に結ばれた血縁的な情と信頼は、何をもってしても打ち破ることのできない不敗の力となり、防疫危機を打開していける絶対的な力となった。

防疫危機を克服するための過程に互いに助け合い、他人のために自分をささげる素晴らしい美徳と美風が数多く発揮されたのも、朝鮮労働党と社会主義制度の懐で集団主義と人間愛を空気のように呼吸し培養してきた朝鮮人民の美しい精神世界を示した。

こうしたわが社会制度特有の優越性があったがゆえに、朝鮮労働党は人民を信頼して全国的に地域別遮断・封鎖と単位別隔絶措置のような世界が知らない強力な防疫措置を講じ、全人民は非常防疫と関連して示達される全ての規定と指示を党の意志として受け止め、国のための愛国事業、

自分の家庭や自身のための当然の義務、本分と見なして自発的に、良心的に遵守し、無条件に実行する立派な気風を示した。

党の信頼と期待に無条件に応えようとする忠誠の熱情と人民への熱烈な愛情に満ちた軍医部門の戦闘員も献身的な努力によって、党に対する人民の絶対的な信頼と軍民一致の高貴な伝統を守った。

このように、世界の保健医療史に特記すべき防疫大勝は、偉大な指導者を戴いており、党と人民の団結した力があるがゆえに、共和国はいかなる挑戦に直面しても、正確な政治的指導力と一心団結の威力によって必ず勝利するであろうということを今一度世界に誇示した。

全世界を破局的な状況に追い込んだ世界的な保健危機から国家と人民の安寧をしっかりと守り抜いた朝鮮の防疫大勝は、2022年に収められた成果の中で最も重要な成果である。

力強く進められた住宅建設

朝鮮労働党と共和国政府は2022年に、厳しい困難の中でも人民のための宿願事業である平壌市5万世帯住宅建設を力強く推し進めた。

そうして、平壌市の松新（ソンシン）・松花地区に1万世帯の近代的な新しい住宅がその最初の実体として建設された。

2021年1月に開かれた朝鮮労働党第8回大会では、平壌市5万世帯住宅の建設が5カ年計画期間に達成すべき重要な課題の一つとして提示された。

2021年3月、平壌市の松新・松花地区では平壌市5万世帯住宅建設計画の最初の実体である1万世帯住宅建設の着工式が行われた。

金正恩総書記は着工式で演説を行い、工事開始を告げる発破のボタンを押した。

総書記は演説で、今年の初めに開かれた第8回党大会と党中央委員会第8期第2回総会では、5カ年計画期間に全国的に住宅建設を力強く推し進めるとともに、首都だけでも5万世帯の住宅を建設し、そのために毎年1万世帯ずつ建設することを決定したと述べた。

また、平壌に5万世帯の近代的な住宅を建設するのは、首都市民により安定した文化的な生活条件を提供するため

に、わが党が大胆に構想し、準備してきた宿願事業であるとし、党と政府は首都の不足する住宅の世帯数を掌握しその解決策を深く研究してきたし、これはわが党と政府にとって最も重大な課題となっていると述べた。

人民により安定した文化的な生活条件を提供するために朝鮮労働党が大胆に構想し、準備してきた宿願事業という言葉はこうして生まれた。

朝鮮労働党と共和国政府は、この課題を遂行するために強力な建設陣と共に莫大な資金と資材を投じた。

人民軍将兵と強力な建設陣は、このときから1年間、松新・松花地区の1万世帯住宅建設を所定の期日内に完工するための闘いを展開した。

特に、1万世帯の住宅建設で最も膨大かつ象徴的意義を持つ80階建てアパートの建設工事を受け持った人民軍将兵は、数々の困難を突破し、時間との激しい競走を行いながら、延べ坪16万余平方メートル、根切り工事量10万2000余立方メートル、基礎コンクリート打ち込み量3万4000余立方メートルに達するおよそ900世帯分の住宅建設工事を短期日内に完成した。

設計者たちは人民の志向と時代相が盛り込まれた標準設計を最短期間内に完成し、技術者、技能工たちはアーチ型組立て式部材で装飾構造物を一挙に組み立てる方法を考案して工事期日を数十日も短縮し、担当区間に対する3D模型

化を実現して作業量の計算と指揮の迅速性、科学性を保障した。

一日の仕事を終えた平壌市民も建設場に駆けつけて建設を支援した。こうして、膨大な1万世帯住宅建設は日を追って推し進められ、わずか1年後には完工の日を迎えた。

こうして首都平壌の東の関門である松新・松花地区に新しい市街が建設され、2022年4月11日、現地でその竣工式が盛大に行われた。

松花通りは、人民により安定した文化的な生活条件を提供し、首都市民の住宅問題を立派に解決しようとする朝鮮労働党の宿願がもたらした人民のすみかであり、創造と変革によって胎動する全面的発展の新時代を象徴する最初の実体であった。

竣工式に参加してテープカットを行った金正恩総書記は、群衆の熱狂的な歓呼に答礼し、新しい街、新しい家の主人となった勤労者たちを温かく祝福した。

それから2日後、普通江川岸段々式住宅区の竣工式が行われた。

金日成主席の自宅があった地に建設された普通江川岸段々式住宅区は、党中央の人民大衆第一主義理念とチュチェ建築の発展戦略が凝縮された新時代の誇らしい創造物である。

首都中心部の由緒深いうってつけの所に造形化と芸術

化、実用性と便利性が最上のレベルで保障された段々式住宅区が建設されたことで、朝鮮には住宅建設の新たなモデル、社会主義の新しい文明を享受する人民の別天地が繰り広げられた。

金正恩総書記は、住宅区の行政区域名称を美しい宝の楼閣という意味で「瓊楼洞(キョンル)」と名づけた。

金正恩総書記は2022年4月13日、竣工式に参加してテープカットを行った。

新居入りした勤労者たちの家を訪ねて主人たちを祝福してくださった総書記は、重ねて感謝の言葉を述べる新居の住人たちに、人民のための無条件的な奉仕を党風としているわが党にとって人民の天下だという言葉は単なる標語ではない、自らの主権を自分の手で打ち固めるわが人民は当然、この地の全ての文明と幸福を享有する主人にならなければならないと述べた。

金正恩総書記は、意義深い太陽節(金日成主席の誕生日、4月15日)を契機に金日成主席の息吹と体臭が宿っている所に立ち上がった人民の豪華住宅区を竣工してみると、金日成主席への思いがいっそうつのると述べた。

そして、金日成主席の子孫がその遺志通りに生きるのは当然の道義、気高い義務である、わが党は金日成主席の念願通りに活動しただけである、金日成主席もおそらく、自宅の跡に愛国者、功労者のための幸せなすみかが建

てられたことを知ったら満足するだろう、一生涯愛した人民を温かい懐に抱いたようで本当に喜ぶことだろう、と切々と語った。

2022年には、和盛地区1万世帯住宅建設が最終段階で推進された。

これは、最悪の挑戦と試練が折り重なる中でも、人民のための宿願事業は瞬時も中断してはならないという朝鮮労働党の確固たる意志の明白な表れであった。

2022年に、朝鮮の農村には農村振興の新時代が開かれた。

農村の様相と環境を一新する事業は全人民が望み、喜ぶ人民的な事業であり、新しい社会主義農村文明、地方が変貌する新世界を開く政治的事業であり、国家の全般的発展を促進する歴史的な事業である。

金正恩総書記が2021年12月に開かれた党中央委員会第8期第4回総会で打ち出した新時代の農村革命綱領に従い、2022年から農村住宅の建設が本格的に推し進められた。

朝鮮労働党と共和国政府は、地方建設、特に農村建設を進めるために、毎年国が全ての市・郡に定期的にセメントを提供することを政策化・法律化するようにし、党中央委員会第8期第4回総会は、国の全ての農村を朝鮮式社会主義にふさわしく、当該地域の特性を明白に生かして建設するという戦略的な課題を提示した。

総書記は、農村住宅建設の計画の作成と順序を明確に定めるようにし、農村建設のための強力な国家的指導システムと資材供給システムを確立すると同時に、市・郡の建設集団と物質的・技術的土台を強めるよう賢明に導いた。

総書記の措置によって、政治性と近代性、文化性と多様性が保障され、地域的特色が生かされた数百件の農村住宅形成案が完成し、2022年に現代文明が凝縮された農村住宅が数多く建設された。

農村住宅建設の初年に、山間地帯や平野地帯、海岸地帯の特性に合うモデル農村が全国各地に立ち上がり、農村の発展を告げる時代の変革的実体が目の前に繰り広げられた。

全国的な競争熱風の中で、江原道高山（コサン）郡雪峰（ソルボン）里、咸鏡北道会寧（ヘリョン）市彰孝（チャンヒョ）里をはじめとする多くの農村に現代文明が凝縮された農村文化住宅がその姿を現し、新居入りの喜びが満ち溢れた。

困難な中で建てられる近代的な農村住宅は、新時代の農村革命綱領の科学性と正当性、生命力を実証するものであった。

住宅建設は首都平壌と全国の農村地域だけでなく、北部朝鮮の検徳地区でも力強く推し進められた。

大規模鉱物生産基地である検徳地区には、2021年から始

めて毎年5000世帯ずつ5年間に2万5000世帯の住宅と便益サービス施設などを備えた山岳峡谷都市を建設することになる。

2020年9月、朝鮮の東海岸と北部内陸の各地域を襲った台風9号によって、咸鏡南道検徳地区では甚だしい被害を受けた。

9月8日、金正恩総書記は党中央軍事委員会第7期第6回拡大会議を招集し、検徳地区の災害復旧を人民軍に委任した。

それからわずか1カ月後、金正恩総書記は臨時復旧された危険極まりない峡谷鉄道を走って遠くて険しい検徳地区を視察した。

総書記は、直接来てみると検徳地区の災害状況は考えたことより非常に大きいとし、ひどい災害の痕跡をすっかり取り除き、復旧建設に取り組んでいる人民軍軍人の勤労の偉勲を高く評価した。

金正恩総書記は、住宅建設場に向かう峠道で、山の斜面のあっちこっちに平屋建ての住宅が所狭しとジグザグに建っているのを眺めては、検徳地区の長年にわたる立ち後れをすっかり取り除き、新世紀の要求に即した近代的な住宅を建設して、検徳地区を三池淵(サムジヨン)市に次ぐ国家的なモデル山間都市・鉱山都市に立派に変える遠大な構想と設計図を示し、地方建設において今一つのモデル、革命を創造するという具体的な課題を与えた。

総書記の命令を受けて住宅建設戦闘に進入した人民軍軍人は、2020年末まで2300余世帯の住宅を建設して台風災害を受けた住民が転居するようにし、次いで人民のための仕事では満足を知らない朝鮮労働党の攻撃速度に歩調を合わせて集団的革新の炎を激しく燃え上がらせた。

こうして、2021年末、検徳地区の深い峡谷に沿って平屋建て、2、3階建て、低層・高層・段々式の住宅が調和をなして立ち並び、数千世帯の住民が新居入りした。

検徳地区では今日も、人民の理想と念願を実現して彼らに文化的な生活を享受させるための取り組みが続けられている。

国の繁栄のための財産

2022年10月10日、意義深い朝鮮労働党創立記念日に際して今一つの壮大な創造物である連浦温室農場が竣工した。

金正恩総書記は現地で行われた竣工式に出席してテープカットを行った。

朝鮮労働党中央委員会第8期第4回総会の決定に従って、高い水準でオートメ化が実現した屈指の近代的な大温室農場、朝鮮式農村文明創造の拠点として立派に建てられた連浦温室農場は、朝鮮労働党が人民に与える繁栄の財産であり、社会主義農村振興の新たな変革的実体である。

朝鮮労働党と共和国政府は、久しい前から温室農場の建設に大きな関心を払ってきた。

特にここ数年来、全国的規模で近代的で実利のある温室農場を大々的に建設して、人民に季節にこだわることなく各種の新鮮な野菜を供給することを政策化し、その実現のための活動を力強く展開してきた。

朝鮮では不利な自然・気候条件のため野菜がよくできない地域から大規模の温室農場建設を始めることにし、その一環として2019年に国の北部地域に位置する咸鏡北

道に仲坪(チュンピョン)温室農場を立派に建設した。

2022年にも、国の工業都市、科学都市である咸鏡南道咸興(ハムフン)市と道内の人民に四季新鮮な野菜を定期的に供給するために道内に大規模の連浦温室農場を建設することを計画し、それを2022年度の最も重大な建設政策課題としてとらえ、それを力強く推し進めて立派に完成した。

朝鮮で大規模温室農場の建設がいかに重視されたかは、仲坪温室農場と連浦温室農場の敷地がいずれも国の重要な軍事基地だったという事実だけでもよく分かる。

大規模温室農場の規模と近代化水準、建設速度も注目に値すると言えよう。

2019年12月に完工なった仲坪温室農場は、当時としては朝鮮で規模が最も大きく、近代的な温室農場である。

300棟の1000平方メートル半アーチ型二重フィルム温室を含めて計320棟の水耕温室と土壌温室が特色のあるものに建設され、数百世帯の住宅と数多くの公共建物、生産建物も建てられた。

温室の管理と野菜栽培の近代化水準が高い仲坪温室農場は、わずか1年余の短期間に建設された。

仲坪温室農場に比べると、連浦温室農場は規模や生産能力が2倍以上に達した。

連浦温室農場は280ヘクタールの広い敷地に生産面積だけでも100ヘクタールに及び、生産能力は数万トンに達す

る近代化、集約化、工業化された850余棟の水耕・土壌温室と地方の特色を生かした1000余世帯の住宅、学校、文化会館、総合サービス施設などが区画別に調和をなして建設された一つの大農場地区である。

温室農場の新しい標準であり、先進的な農業技術を普及する実物教育農場である連浦温室農場は、各種の葉菜と果菜を季節にかかわらず多量生産することができ、機能や建築美学の面でも、品質保証の面でも水準の高い、今の世代だけでなく次の世代もそのおかげをこうむることができる記念碑的建造物である。

連浦温室農場の建設過程は、敵対勢力の絶え間ない挑発策動、建国以来初めての厳しい防疫危機、相次ぐ自然災害との厳しい闘いを行わなければならない、実に試練に満ちた日々であった。

人民軍将兵は朝鮮労働党の崇高な志を体して、230余日間に巨大な温室農場を建設する奇跡を生み出した。

人民との約束、人民の福祉増進のための事業はどんな代価を払っても必ず実現しなければならないという朝鮮労働党と共和国政府の確固たる意志に従い、人民軍将兵は連浦温室農場建設場で時間との戦争、新しい基準、新しい奇跡創造の攻撃戦を果敢に展開した。

軍人建設者たちは、朝鮮労働党の宿願事業を実現する前には倒れる権利がないという覚悟、自分たちが汗をして苦

労すればそれだけ人民の幸せが大きくなるという気高い精神を持ち、耐え難い高熱と激しい砂の強風、連日続く豪雨の中でも熾烈な決死戦を繰り広げて、大規模の近代的な温室農場を打ち立てた。

2022年11月、連浦温室農場では新しく建設された住宅の新居入りが行われ、楽しい踊りの輪が繰り広げられ、幸せの笑い声、歌声が響き渡った。

国が最も大きな困難に直面し、人民が最も苦労するときにもたらされた人民の財産であるがゆえに、連浦温室農場は咸鏡南道の人民だけでなく、全国の人民に明るい明日への確信と大きな鼓舞的力を与えた。

朝鮮人民は歴史にかつてなかった厳しい試練の中でもスケールの大きい目標と輝かしい将来を設計し、人民のための建設の大繁栄期をもって国家発展の新たな局面を開いていく傑出した偉人の不滅の業績を永遠に伝えるべく、連浦地区に金正恩総書記の偉大な英姿を形象化したモザイク壁画を丁重に建立した。

2022年は、朝鮮において社会主義農村の新たな発展が始まった初年であった。

金正恩総書記は、朝鮮労働党中央委員会第8期第4回総会で、農村振興を力強く推し進めて国の農業を上昇段階に引き上げ、社会主義農村の飛躍的発展を成し遂げる偉大な新時代を切り開くための新しい農村革命綱領を示した。

綱領には、社会主義農村建設の目標と当面の中心的課題、農村において思想、技術、文化の3大革命を力強く推し進め、農業生産を持続的に増大させる問題、農業に対する国家の投資を増やし、農村の様相と環境を改善する問題をはじめ、全国の農村を豊かで暮らしのよい理想村に整える上で提起される重要な指針が全面的に、具体的に明示された。

新時代の農村革命綱領を実現するための力強い取り組みの中で農村機械化を推し進めることのできる強固な物質的・技術的土台が築かれ、国の農業生産で重要な役割を担っている黄海南道に数千台の農業機械が供給された。

2022年に、朝鮮の軍需工業部門の労働者たちがつくり出した5500台の能率の高い農業機械と機械工業部門の労働者たちが生産した数百台の稲総合脱穀機が黄海南道の全ての農場と作業班に供給された。

黄海南道の田野に送られた新型の農業機械は、朝鮮の実情に合いながらも扱い安く、高い作業能率を出せるように設計、製作された。

2022年に増えた繁栄のための財産の中には、地方工業の近代化のモデルとして様変わりした金化郡の地方産業工場もある。

朝鮮労働党は、第8回党大会で打ち出された市・郡強化の路線を貫徹するために、また地方産業工場の新たな基準

を創造するために、一つの郡内の立ち後れた地方産業工場を大胆に取り払い、時代と地方文明の尺度になれるように新たに建設することを決心し、生活条件が一番悪く、経済的土台も貧弱な金化郡の地方産業工場を国の標準、モデルとしてつくり変えることにした。

金化郡の地方産業工場を国の地方工業近代化のモデルに改造するための強力な措置が講じられた。

そうして、困難な条件の下でもやせた山間郡である金化郡の地方産業工場が朝鮮の地方産業工場のモデルとなった。

改造・近代化が短期間に完成されて金化郡の地方産業工場の技術工程と技術手段の近代化水準が高まり、経営管理水準が向上した。

金化郡の地方産業工場には、地域的特性に即して農産物と森林資源を最大限に効果的に利用する方向で生産工程が設けられ、それに基づいて全ての製品を生産している。

現在、郡内の食品工場、縫製品工場、日用品工場、製紙工場では、数十種、百数十品目の各種食品や消費財が生産されている。

今日、朝鮮では金化郡の地方産業工場をモデルとして全国の地方産業工場を近代化するための取り組みが力強く展開されている。

全ての地方産業工場で生産工程を改造・近代化し、その

地方の特産物や資源に依拠して良質の一般消費財の生産を増やすために研究と思索、探究を続けている。

　この他にも、近代的な大城山（テソンサン）アイスクリーム工場が建てられ、大動力基地である漁郎川（オランチョン）発電所と金星（クムソン）トラクター工場の第1段階改築・近代化工事が完成され、南興（ナムフン）青年化学連合企業所の大規模炭酸ソーダ生産工程が確立されたのをはじめ、厳しい困難が折り重なっている中でも国の至るところには繁栄のための財産が次々ともたらされた。

次世代のために

2022年2月初め、朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議第14期第6回会議では、朝鮮民主主義人民共和国育児法が採択された。

この育児法は金正恩総書記の崇高な次代愛によって採択されるようになった。

2021年6月下旬、金正恩総書記の指導の下に朝鮮労働党中央委員会第8期第3回総会が開かれ、党の育児政策を改善・強化するという問題が会議の第6議案として討議された。

総書記は、祖国の未来である子供たちを健康で丈夫に育てることより重要な事業はなく、数万金を投じてでもより改善された養育条件を提供しようとするのは、朝鮮労働党と共和国政府の最重要政策、最高の宿願であると強調し、この地に生まれる子供たち、育ち行く新しい世代がみな幼い頃から良い環境で満足に食べ、すくすく育つようになれば、今後20年、30年先にはそれだけ社会にいっそう躍動する生気と活力が溢れ、共和国の国力はより強くなるだろうと述べた。

実際、朝鮮ではすでに1940年代の後半期から多額の国家資金を投じて各地に託児所や幼稚園を設けて運営すること

によって、子供たちを社会的に保育・教育するシステムが確立されていた。

このシステムはその後、共和国政府によって1976年に幼児保育・教育法として法制化された。この法の採択によって、全国的に託児所と幼稚園の数が日を追って増え、子供たちの栄養学的状態はさらに改善された。

幼児保育・教育法はその後数回にわたって修正・補足された。

しかし、敵対勢力の執拗で悪辣な制裁と長期化する世界的な保健危機によって生じた経済的困難は、子供たちの養育にも少なからぬ支障を来たした。

金正恩総書記は、党中央委員会総会で、国家の負担で全国の子供たちに乳製品をはじめとする栄養食品を供給することを党の政策として打ち出すことについて述べ、その実行のための具体的な課題と方途を示した。

実際、乳製品の生産土台が弱い朝鮮の実情で、国家の負担で子供たちに乳製品を年中切らさずに提供するということは決して容易なことではなかった。

しかし、総書記は困難なときほど子供たちに真心を尽くし、その愛の力で共産主義の未来に向かって力強く進むのが朝鮮革命の前進方式、発展方式とならなければならないとし、子供の成長・発育において一番重要な年齢期である託児所、幼稚園の子供たちに国家の負担で乳製品を供給す

ることを党の政策とするようにした。

そして、その実行のための具体的な課題と方途を示し、全ての活動家は子供たちの実の親になった気持ちで託児所、幼稚園の子供たちを十分に食べさせることに格別な関心を払い、党の育児政策の貫徹に実質的に寄与することによって、党と革命、祖国と人民への忠実性を検証してもらわなければならないと述べた。

総会の参加者は、総書記の提起を大きな衝撃と感動の中で審議し、当該決定書を全会一致で採択した。

総会以後、朝鮮労働党の育児政策を貫徹するための実務的対策が講じられた。

朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議第14期第6回会議は、朝鮮労働党の次代愛が込められた党中央委員会第8期第3回総会の決定を国家の法律として採択した。

4章、61条からなる育児法は、朝鮮民主主義人民共和国幼児保育・教育法の附属法で、幼児栄養食品の生産と供給、子供の養育条件の保障に関する秩序を規制している。

育児法は、品質の保証された原料を粉ミルクの生産に利用し、粉ミルクの生産工程と設備を近代化し、乳加工技術を発展させて国家規格に合う粉ミルクを生産する問題、託児所、幼稚園に必要な設備と楽器、玩具などの備品を円滑に保障する問題、暖房及び炊事保障に必要な電力と燃料の保障問題などを主な内容としている。

育児法の採択により、全国の各地で子供たちに乳製品をはじめとする栄養食品を定期的に供給し、立派な養育条件を与えるための活動がより力強く展開された。

各道・市・郡では乳加工場、飼料加工場を揃えた能力の大きい乳牛・ヤギ牧場を新設したり、能力拡張及び改築するための活動が推進されて、乳牛やヤギの数が増え、前年の同じ時期に比べて乳生産量ははるかに増えた。

また、全国の乳製品生産単位と供給単位に運輸機材、冷凍及び貯蔵施設、輸送容器など必要な条件が備えられて、子供たちに衛生安全性が保証された新鮮な乳製品が定期的に供給されるようになった。

2022年に朝鮮の子供たちの間では下痢や栄養不足、その他呼吸器疾患などの発病率が著しく減り、厳しい状況下でも子供たちの身長や体重が増えて父母たちを喜ばせ、人々を感動させた。

2022年の新学年度を迎えて、全国の全ての新入生に新しい制服や靴、かばんや学用品などが一式揃えて供給された。

これを受けて、全国の全ての小学校と中学校、大学の新入生たちに新しい制服や靴、かばんや学用品が供給された。

学生少年に施される朝鮮労働党の恩恵はこれだけではなかった。

朝鮮労働党創立記念日に際して、全国の院児たちに防寒服や冬季用運動服、防寒靴が供給された。

2022年12月末に開かれた朝鮮少年団第9回大会と、2023年の元旦に大会の代表たちと記念写真を撮る金正恩総書記の姿を見て、朝鮮人民は祖国の明るい未来を確信し、国家のためによりいっそう献身する決意を固めた。

3 絶対的な軍事的強勢

2022年は、世界的な軍事強国としての朝鮮の威容と絶対的な力が誇示された年である。

共和国が国防分野で収めたこの年の奇跡的成果は、人類の平和を守る上で正義の国、超強国がどんな国であるかを全世界に知らしめた。

敵の度重なる無謀な軍事挑発行為に対処して、実戦の雰囲気の中で行われた前例のない大規模な軍事訓練は、強対強の不変の原則と最強の核対応態勢で敵の挑発を無力化し、国家の尊厳と自主権を死守しようとする朝鮮の断固たる立場と鉄の意志を世界にはっきりと示し、朝鮮の核戦闘武力の現実性と戦闘的効果性、実戦能力を今一度明白に認識させた。

そして、国防科学部門と軍需工業部門において相次いで成し遂げた新世代の先端武力装備の開発成果は、共和国武装力の近代性と軍事技術的強勢をいっそう絶対的なものにした最も意義のある歴史的な出来事となる。

強力な軍事的対応

2022年に入って膨大な兵力を動員して朝鮮を侵奪しようとする米国やその追随勢力の無分別な軍事対決妄動は極度に達した。

米国は、朝鮮の国家核武力政策の法制化に対処するという美名の下に、南朝鮮に対する「拡大抑止力」提供のさらなる強化を合意した上で、その初の段階として2022年9月23日、朝鮮半島水域に原子力空母「ロナルド・レーガン」号の打撃集団を引き入れ、次いで9月26日から10月8日にかけては連日軍事訓練を繰り広げて地域の緊張をいっそう激化させた。

米国は、9月26日から29日までの4日間にわたって朝鮮東海で南朝鮮の好戦勢力との連合海上訓練を展開し、30日には日本や南朝鮮との連合対潜戦訓練を強行した。

10月6日には、朝鮮東海水域を離れていた原子力空母打撃集団を再進入させて連合ミサイル防衛訓練を、7日と8日には海上連合機動訓練を繰り広げて公然と朝鮮を軍事的に脅かした。

そして、10月31日から11月5日にかけては核戦略爆撃機を含む数百機に及ぶ各種の戦闘機を動員して、史上最大規模の米国・南朝鮮連合空中訓練「ビジラント・ストーム」を悪辣に強行した。

敵対勢力の軍事挑発は、共和国をターゲットにした侵略的性格の濃い危険極まりない戦争演習であった。

朝鮮労働党中央軍事委員会は9月下旬、朝鮮半島につくり出された政治的・軍事的情勢とその展望を討議し、敵対勢力に強力な軍事的対応警告を発するためにさまざまな水準の実戦化された軍事訓練を行うことを決定した。

朝鮮労働党中央軍事委員会の決定を受けて、共和国武力は戦術核運用部隊と空軍飛行隊、前線長距離砲兵区分隊の強力な軍事訓練を行った。

朝鮮人民軍戦術核運用部隊は9月25日早暁、朝鮮西北部の貯水池水中発射場で戦術核弾頭装備を模擬した弾道ミサイルの発射訓練を行い、次いで9月28日には南朝鮮の作戦地帯内の飛行場を無力化する目的で戦術核弾頭の装備を模擬した弾道ミサイルの発射訓練を行った。

そして、9月29日と10月1日に行った各種の戦術弾道ミサイルの発射訓練では、上空爆発や直接精密及び散布弾打撃の組み合わせで諸設定標的を命中することによって、兵器システムの正確性と威力を実証した。

朝鮮人民軍の戦術核運用部隊は敵対勢力により強力かつ明白な警告を発するために10月4日、新型地対地中長距離弾道ミサイルで日本列島の上空を横断飛行して4500キロ界線の太平洋上の設定された標的水域を打撃した。

新型地対地中長距離弾道ミサイルの最初の発射が日本列

島の上空を横断飛行して成功裏に行われることによって、朝鮮は朝鮮東海だけでなく太平洋水域まで標的に入れて意のままに打撃できるようになった。

朝鮮人民軍は10月6日、西部前線長距離砲兵区分隊と西部地区空軍飛行隊の合同打撃訓練を行い、8日には百数十機の各種戦闘機を同時に出撃させた大規模航空攻撃総合訓練を行って、敵対勢力の挑発を無力化し、人民軍の臨戦態勢や軍事的対応能力を余すところなく示した。

朝鮮人民軍総参謀部は敵の「ビジラント・ストーム」訓練に対応して、11月2日から5日まで空軍の大規模な総戦闘出撃作戦を含む対応軍事作戦を断行した。

戦術弾道ミサイルの発射から始まった対応軍事作戦は、地対空ミサイルの発射、戦略巡航ミサイルの報復打撃、弾道ミサイルの試射、超大型ロケット砲弾や各種の戦術弾道ミサイル、長距離ロケット砲弾の発射などで続けられた。

中でも、数百機の各種戦闘機を動員した朝鮮人民軍空軍の総戦闘出撃作戦は、敵に徹底した対応意志を示し、敵空軍の「優勢論」を容赦なく粉砕したものである。

共和国武力の実戦化された軍事訓練と対応軍事作戦は、敵対勢力に極度の不安や恐怖を抱かせた誇るに足る快勝であった。

戦術核運用部隊の発射訓練を通じて、任意の時間や場所で、目的とした対象を意のままに打撃・掃滅できるように

完全な準備態勢を整えている共和国の核戦闘武力の現実性と戦闘的効率、実戦能力があまねく発揮された。

朝鮮人民軍の前線長距離砲兵区分隊と空軍飛行隊の火力打撃訓練など、共和国武力の相次ぐ軍事的対応攻勢に侵略勢力は度肝を抜かれた。

それが誰であれ、朝鮮に手出しをするなら強力な核先制攻撃、容赦ない懲罰が加えられるという明白な警告がまさに、朝鮮の革命武力の実戦化された軍事訓練と対応軍事作戦であった。

共和国武力の実戦化された軍事訓練と対応軍事作戦は、朝鮮人民に社会主義の勝利に対する必勝の信念を抱かせた。

社会主義の偉業に対する必勝の信念はおのずと生まれるのではなく、一度身につけたからといって永遠なものになるわけでもない。

それは社会主義の優越性に対する認識、絶え間ない教育とともに、国家の到達した国力と威力を深く体得してこそ、強固なものになるのである。

国家核戦闘武力の威容の誇示、対応軍事作戦は、尊厳ある共和国に敢えて手出ししようと企んでいる敵対勢力に軍事的威嚇を加える、一方的かつ圧倒的な武力の示威となった。

戦術核運用部隊の軍事訓練と前線長距離砲兵区分隊、空

軍飛行隊の火力打撃訓練、各種の戦闘機の大規模な総戦闘出撃作戦に関するニュースを、新聞やテレビ、放送を通じて知った朝鮮人民は、強力な力によって敵対勢力を圧迫する革命強兵の威力をいっそうはっきりと認識し、無敵の軍事力があるがゆえに国家の尊厳と自主権、生存権は誰も侵すことができず、社会主義の全面的発展を目指した朝鮮の力強い前進は何をもってしても押し止めることができないという信念を固めるようになった。

核には核をもって

朝鮮半島の軍事・政治情勢を危険ラインへと執拗に追い込んでいる米国と敵対勢力の無分別な軍事対決妄動が限界を超え、主権国家の自衛権までも挑発と罵倒する偽善的で、強盗さながらの詭弁が国連の舞台においても合理化されている看過できない形勢は、朝鮮が圧倒的な核抑止力向上の実質的な加速化や朝鮮労働党と共和国政府のより明白な超強硬報復の意志を実際の行動をもって示すことを求めていた。

2022年11月18日、金正恩総書記の直接の指導の下に、朝鮮労働党の絶対不変の対敵意志とチュチェ朝鮮の強大な力を満載した新型大陸間弾道ミサイル「火星砲—17」型が発射された。

11月18日の歴史的な出来事は、世界的な軍事強国の実際の力を全世界に轟かせた偉大な出来事であり、民族史的大慶事であった。

米国が核兵器で朝鮮を威嚇すれば、朝鮮も核兵器で米国を威嚇すべきであり、核の棍棒を振りかざせば核の宝剣で断固として立ち向かうべきだというのが朝鮮労働党の確固たる闘争原則である。

共和国に対する米国とその追随勢力の無分別な軍事対決

妄動が限界を超えている状況下で朝鮮労働党は、新型大陸間弾道ミサイル試射の大成功によって「核には核で、正面対決には正面対決で！」という絶対不変の超強硬の対敵意志を示した。

米国の対朝鮮敵視政策や核脅威が根源的に清算されない限り、朝鮮はいかなる場合にも核武力強化の道で一寸たりとも退かないであろうし、敵対勢力の狂乱的な攻勢が強まれば強まるほど、朝鮮の自衛的核武力の質的・量的な強化も加速するであろうということ、朝鮮を相手にする軍事的対応はすなわち自滅だということを米国とその追随勢力に厳然たる実体ではっきりと示したところに、新型大陸間弾道ミサイル「火星砲—17」型の試射の持つ大きな意義がある。

11月18日の歴史的な出来事は、平和守護の絶対的な力を備蓄した朝鮮の威力を全世界に示した民族史的大慶事である。

侵略と戦争のない世界で平和に暮らそうとするのは人類の念願である。しかし、平和は願うからといっておのずと訪れるものではない。

力の論理が支配する今の世界では、弱者でなく第一の強者となってこそ、国と民族の現在と未来をしっかりと守ることができるのである。

打撃能力が強いほど、侵略を抑制する力はそれだけ大き

くなるということは自明の理である。

　平壌国際空港で発射された新型大陸間弾道ミサイル「火星砲―17」型は、最大頂点高度6040.9キロまで上昇し、999.2キロの距離を4135秒間飛行して朝鮮東海の公海上の予定水域に正確に弾着した。

　朝鮮の戦略武力を代表する新型大陸間弾道ミサイル試射の成功によって、兵器システムの信頼性と世界最強の戦略兵器としての威力ある戦闘的性能が如実に検証された。

　このミサイル試射の成功によって、朝鮮労働党の遠大な強国建設偉業を実現するための力強い前進途上で飛躍的に急増する共和国の強大な実力と朝鮮の戦略的威力、絶対的威力が示された。

国防工業の飛躍的な発展

5年という短期間に国家核武力建設の大業を完成して軍事技術的強勢を示した朝鮮の国防工業は、2022年の初頭から新世代のチュチェ兵器の開発に次々と成功して、敵対勢力に朝鮮は決して空言を弄しないということをはっきりと知らしめ、自分の飛躍的な発展ぶりを世界に示した。

金正恩総書記は、今世紀の最も厳しい難関や史上初の重圧を乗り越えなければならない状況下で、わずか数カ年で核大国が独占している全ての絶対兵器を保有し、そうした土台に基づいて一挙に跳躍して未曽有のチュチェ兵器を開発・完成するよう導いた。

国防科学者は2022年の厳しい困難の中でも革命武力の軍事技術的強勢を確固と維持し、国家の平和と安全を固守する新世代のチュチェ兵器を相次いで開発・完成した。

2022年に極超音速ミサイルの試射に成功し、次いで今一つの強力な核攻撃手段の出現を全世界に告げる大陸間弾道ミサイル「火星砲—17」型の試射に成功することによって、急テンポで発展する戦略兵器の発展ぶりとその威力を余すところなく示した。

2021年にも朝鮮は、新型戦術誘導弾の試射や新たに開発した長距離巡航ミサイル、対空ミサイル、新型潜水艦発射弾道弾の試射に成功していた。

しかし、2022年には武力装備の更新周期がいっそう速まって今一度人々を驚かせた。

1月、極超音速ミサイルの試射と平安(ピョンアン)北道鉄道機動ミサイル連隊の検閲射撃訓練、長距離巡航ミサイルシステムを更新するための試射と地対地戦術誘導弾の通常戦闘部の威力確認のための試射が成功裏に行われた。

3月には新型大陸間弾道ミサイル「火星砲—17」型の試射、4月には新型戦術誘導兵器の試射に成功した。

9月の貯水池水中発射場における戦術核弾頭の装備を模擬した弾道ミサイルの発射と、10月の長距離戦略巡航ミサイルの試射は、他人には想像もつかない速い開発速度と任意の場所で、任意の時間に、任意の目的や方式で敵を打撃できる能力を示威した。

超大型大陸間弾道ミサイル「火星砲—17」型は、朝鮮の戦略武力の到達した最高の現代性と打撃能力を今一度実感させた。

新型の主力戦車、自走平曲射砲と世界に唯一無二の超大型ロケット砲、対装甲兵器、各種の電子兵器と偵察・探知手段、最新型の戦術ミサイル、「北極星」系列の水中及び地上発射弾道ミサイルと「火星砲」系列の中距離及び大陸間弾道ミサイル、対空ミサイル総合体などの武力装備はいずれも世界的水準のものである。

2022年12月には140tf推進力大出力固体燃料エンジンの地上噴出試験に成功して、今一つの新型戦略兵器システム

の開発に対する確固たる科学技術的保証がもたらされ、朝鮮労働党第8回大会で示された国防科学発展及び兵器システム開発5カ年計画の戦略兵器部門の最優先5大課題を実現するための重要な問題が立派に解決された。

世界がチュチェの国防工業の発展ぶりを目の当たりにして驚嘆してやまないのは、一つ一つの兵器がいずれも世界的な強大な威力を持つ兵器だということもあるが、それよりも核運用手段が多様化し、運用空間が拡大したからである。

世界は、朝鮮が自分をどのようにして守っているのかを知らされた。

朝鮮の火星砲の威力に恐れをなした米国と日本、南朝鮮かいらい一味は、「このたび発射されたミサイルは米本土にまで核弾頭を飛ばせるもので、米国を直接的に脅かしている」「北の試射は、米国に向かって『われわれもお前らの息の根を止めることができる』という信号を送ったことになる」と、悲鳴を上げた。

新世代のチュチェ兵器の相次ぐ開発・完成は、国家と人民の安全と未来を固守できる、より確実で、より完備され、より強化された戦略的力、戦争抑止力を示した。

新世代のチュチェ兵器は2022年を輝かせるための朝鮮人民の闘争を力強く励ました。

2022年の変革的な国防発展の様相は、朝鮮人民が敵対勢力を制圧する強大な軍事力を持った強大国の公民とい

う誇りと自負を持って、自信満々の胆力と闘志、情熱と気迫を発揮して自力自強の創造物、時代のモデル、変革的実体をより多く、より立派につくり上げるようにした原動力となった。

※　※　※

2022年の難関を乗り越え、国の地位を著しく高めた朝鮮人民は、自分の前進方向と発展方式の正しさを再認識し、自分の力を信じてより素晴らしい未来を早めるために倍加の努力を傾注する熱意に満ちている。

2022年12月に行われた朝鮮労働党中央委員会第8期第6回総会は、2023年度の闘争方向とその遂行方法を明示した。

チュチェ革命の万年の計を保証する偉大な大綱領があり、強力な自立経済、党と人民の不抜の一心団結と無敵の軍事力があり、万難を排して蓄積した貴重な経験があるがゆえに、朝鮮人民は自分の夢と理想を必ず実現するであろう。

国威を輝かせた2022年

編　集：尹英日、松真成

翻　訳：許京準、金進赫

発　行：朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社

発行日：チュチェ112(2023)年4月

E-mail: flph@star-co.net.kp
http://www.korean-books.com.kp

朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
チュチェ112(2023)

ISBN 978-9946-0-2200-0
9 789946 022000 >